

特定外来生物

ゴケグモ属 (ハイイロゴケグモ・セアカゴケグモ)

クモ綱 クモ目 ヒメグモ科 *Latrodectus* spp.

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100※

世界の侵略的外来種ワースト 100

注: 本県では、ゴケグモ属の外来クモ類として、ハイイロゴケグモ、セアカゴケグモの2種が確認されている(2023年時点)。※はセアカゴケグモのみ指定されている。

基礎情報

原産地

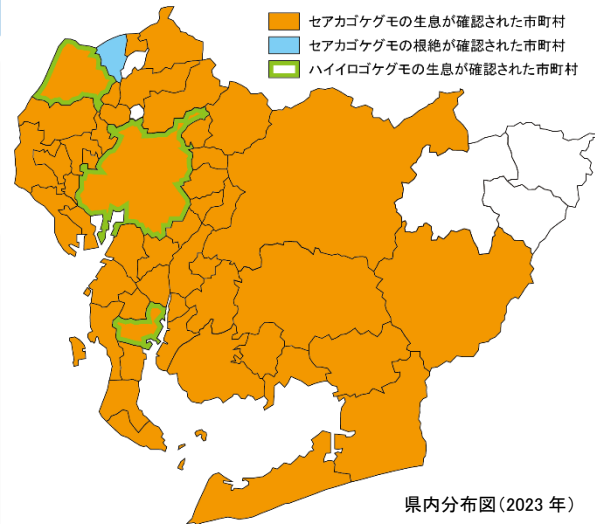
【ハイイロゴケグモ】 亜熱帯地方

【セアカゴケグモ】 オーストラリア

現在の分布

【ハイイロゴケグモ】 国内では、13都府県で確認されている。県内では、名古屋市、一宮市、半田市で確認されている。

【セアカゴケグモ】 国内では、青森、秋田を除く45都道府県で確認されている。県内では、三河地方の山間部や一部の町を除き、広く定着している。



侵入の経緯

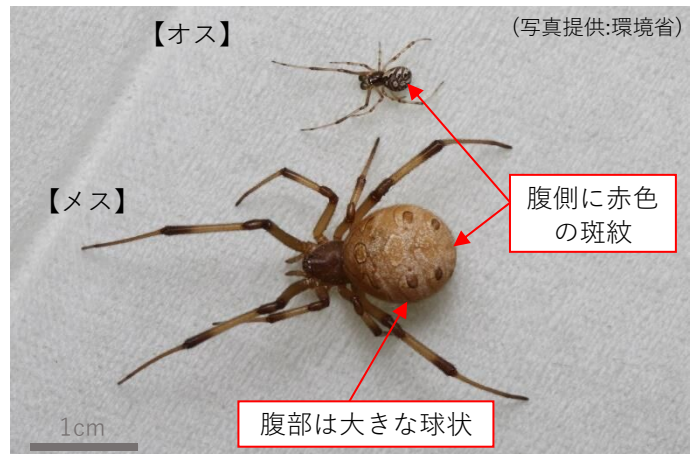
【ハイイロゴケグモ】 国内では、1995年に神奈川県横浜市本牧埠頭で初めて確認された。積み荷、コンテナ、パレット等に付着して侵入してきた可能性が高い。

【セアカゴケグモ】 国内では、1995年に大阪府高石市で初めて確認された。本県では、2005年に常滑市、弥富市、飛島村で初めて確認された。港湾や空港がある地域で多く発見されており、積み荷、コンテナ、パレット等に付着して侵入してきた可能性が高い。

形態

【ハイイロゴケグモ】

- ・成熟したメスの体長(足を除く長さ)は、約1.2~1.6cm。腹部は大きな球状。
- ・オスはメスに比べ小さく、体長0.6~0.8cm程度。成熟したオスは、腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らむ。
- ・体色はさまざまで、腹部背面が真っ黒のもの、茶色や灰色を基調として斑紋を有するものなど変異が多い。
- ・オス、メスともに腹部の腹側に砂時計のような形の赤色の斑紋がある。
- ・卵のう(卵を入れる袋)は薄黄色の球状で、表面に多数の突起物がある。



丸く膨らんだ触肢

形態

【セアカゴケグモ】

- ・成熟したメスの体長（足を除く長さ）は、約 0.7～1.0cm。腹部は大きな球状。全体が光沢のある黒色で、腹部の背面に目立った赤色の縦条がある。
- ・オスはメスに比べ小さく、体長 0.4～0.5cm 程度。成熟したオスは、腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らむ。腹部背面は灰色～褐色の地に、白い線が中央と縁側に入る。足の色は薄い褐色と濃い褐色の縞のように見える。
- ・オス、メスともに腹部の腹側に赤色の砂時計のような形の斑紋がある。
- ・卵のう（卵を入れる袋）は直径 1.0～1.5cm の球状で乳白色。



生息環境

- ・陽のよくあたる場所の、地面近くの隙間やくぼみに巣を張る。
- ・道路側溝の中や、プランターやエアコンの室外機など人工物の物陰、駐車場の周辺など、身近なところに営巣していることが多い。

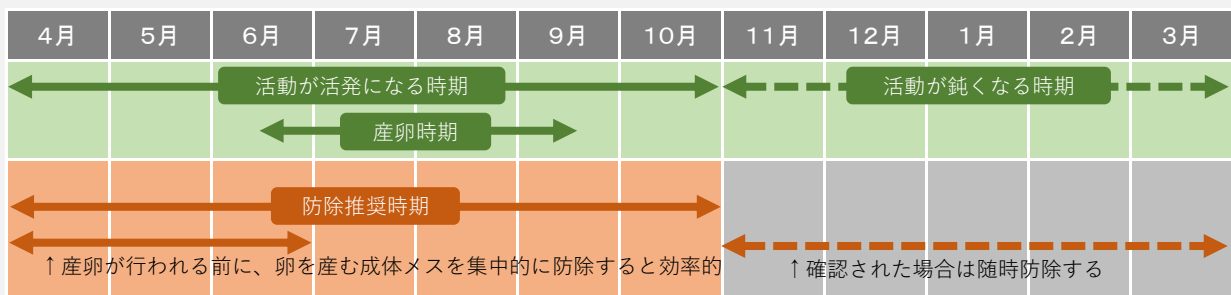
生態・ライフサイクル

- ・肉食性で昆虫類、ヤスデ、ダンゴムシ等を食べる。
- ・攻撃性は高くないが、メスは毒を持っており、咬まれると痛むほか、重症化する場合がある。
- ・人工物を好み、物置、墓石、外壁、窓枠、花壇、敷石、ガードレールなどの隙間やくぼみ、ベンチ、農機具、建設資材などの下、側溝の中、電柱や街路灯の根元など様々な場所に強い糸の管状住居のある不規則な網目の巣を張り、待ち伏せ型の狩りを行う。動きは遅い。
- ・セアカゴケグモでは、メスは夏～初秋に 7～8 個の卵のうを産み、1 卵のうあたりの卵数は数十から 200 個。産卵後約 20 日でふ化し、その後メスは約 70 日、オスは約 40 日で成熟する。
- ・ハイイロゴケグモでは、1 回の繁殖で約 5000 個産卵する。



セアカゴケグモの巣

【ライフサイクル・防除推奨時期】



哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

類似種との識別ポイント

- ・他の外来ゴケグモ属としてクロゴケグモ、ジウサンボシゴケグモなどがいるが、本県では、これまでハイイロゴケグモとセアカゴケグモ以外の外来ゴケグモ属は確認されていない。
- ・ハイイロゴケグモに似たオオヒメグモ（在来種）がいるが、腹面の斑紋がないことで識別が可能である。
- ・ムナグロヒメグモやアシブトヒメグモなど、背面に斑紋があるセアカゴケグモに似た在来種がいるが、これらの種には腹面の斑紋がないことで識別が可能である。
- ・幼体やオスは他のヒメグモ科と混同されやすく、種名の確定が困難なことがある。

影響・被害

- ・ゴケグモ属は攻撃性は高くないが、直接触ると咬まれることがある。日本では主に6～10月に咬傷例が報告されている。
- ・ゴケグモ属のメスはα-ラトラシキンという神経毒を持っている。咬まれた場合の被害は、ほとんどが軽傷だが重症化することもある。死亡することは非常に稀で日本では死亡例はないが、乳幼児や高齢者は症状の進行が早く、重症化しやすいとされている。
- ・咬まれた場合の主な症状として、局所の疼痛、熱感、痒感、紅斑、硬結、区域リンパ節の腫張などが生じる。通常は数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺などが起こる場合がある。
- ・県内における死亡・咬傷例は報告されていないが、近年は分布が拡大し人の生活圏にまで侵入しているため注意が必要である。学校、公園、工場などの人が多く集まる場所で確認された例や、庭に置いた靴の中に潜んでいた例もある。公園等で生息が確認された場合は、ベンチの裏やグレーチングの網目等に子どもが不用意に手指を入れることのないよう、注意喚起をするのが望ましい。

【咬まれた時の対応】

- ・咬まれた場所を水で洗い、すみやかに最寄りの医療機関で受診する。
- ・受診の際は、ゴケグモに咬まれたことを伝えるようにする。
- ・咬んだクモの種類がわかるように、できれば殺したクモを医療機関に持参する。
- ・全身に症状がでた場合は救急車を呼ぶ（重症化した場合は血清が必要）。

生息・被害の確認方法

- ・生息の可能性がある場所で、目視により成体、巣（網）、卵のうを確認する。
- ・巣（網）は不規則な網目で、粘り気の強い糸で作られている。網には昆虫、ヤスデ、ダンゴムシなどの食べかす、ゴミ、枯れた植物の葉や茎などが付着していることが多い。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や公園等の施設管理者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



生息の可能性がある場所の例

防 除 方 法

- ・成体は市販の家庭用殺虫剤やガスバーナーを用いて駆除する。
- ・卵のうは踏みつぶすか、ガスバーナーで焼却する。
- ・自治体あるいは専門業者に駆除を依頼する。

推 奨 時 期

- ・気温が上がり活動が活発になる4～10月に防除する（気温が低い冬はほとんど活動しなくなる）。
- ・活動が鈍くなっても不用意に触ると咬まれるおそれがあるため、発見された場合はその都度すみやかに駆除することが望ましい。
- ・産卵が行われる前（春～初夏）に実施すると、卵を産む成体メスを集中的に防除できるため、効率的に減らすことができる。

具体的な防除方法

- ・成体は市販の家庭用殺虫剤（ピレスロイド系）やガスバーナーを用いて駆除する。または踏みつぶす。
- ・卵のうの外からは殺虫剤が効きにくく、中で子グモがふ化している場合もあるため、割りばし等を使ってビニール袋に入れてから踏みつぶすか、ガスバーナーで焼却する。



殺虫剤による駆除

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意（行う場合は手続等が必要）である。
- ・作業中に手や足を咬まれないよう、必ず保護手袋（軍手等）や靴下を着用し、肌を出さないようにする。
- ・驚くと死んだふり（擬死）をすることがあるため注意する。
- ・殺虫剤を使用する際は、人やペット、人が触る場所にかからないよう配慮する。また、動かなくなっても完全に死んでいない可能性があるため注意する。
- ・ガスバーナーを用いる場合は、火事や火傷をおこさぬよう十分注意する。
- ・1匹見つかれば周囲にも潜んでいたりと、卵のうがある可能性もあるため、周りをよく確認したり、駆除後も定期的に確認をする。



ガスバーナーによる駆除

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > その他の動物 > ハイイロゴケグモ（国立研究開発法人 国立環境研究所）
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70130.html>
- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > その他の動物 > セアカゴケグモ（国立研究開発法人 国立環境研究所）
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/70020.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > ゴケグモ属（環境省 自然環境局）
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-ku-08.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集（環境省 自然環境局）<https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル クモ・サソリ類（環境省 自然環境局）
https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/8hp_kumosasori.pdf
- ・セアカゴケグモ・ハイイロゴケグモにご注意ください！（環境省 自然環境局,2019）
- ・特定外来生物セアカゴケグモ中国・四国版（環境省 中国四国地方環境事務所,2013）
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021（愛知県,2021）p.97 セアカゴケグモ（緒方清人）

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物